

表 2.4 調査内容および結果概要表 (3)

既往の調査内容および結果 (H7~14)

年度	調査内容	結 果
7	<ul style="list-style-type: none"> 代表的ポップアウト部の写真撮影 6箇所1回 ペイント塗布部および表面清掃部のクラック観察、18箇所 1回 ヘアークラック中央部調査 概査 588㎡ 精査 30箇所 監査廊内3Dゲージ測定 12箇所 堤体下流ブロック継ぎ目クラック測定 15箇所 コアボーリング部の観察 2箇所 解析・整理等 	<p>定点観察位置でのクラックの成長は1箇所あたりほぼ1~5本程度であるが、EL. 774m (3段目) より上方でクラックの伸長が多く、特にEL. 884m (7段目) は垂直方向の長いクラックの伸長が見られる。</p> <p>コンクリートの研磨では線状の明瞭クラックは研磨下にも伸びているが、これ以外はコンクリートは堅硬でヘアークラックは見られない。</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> 代表的ポップアウト部の写真撮影 6箇所1回 ペイント塗布部および表面清掃部のクラック観察、18箇所 1回 ヘアークラック中央部調査 概査 588㎡ 精査 30箇所 監査廊内3Dゲージ測定 12箇所 堤体下流ブロック継ぎ目クラック測定 15箇所 コアボーリング部の観察 2箇所 解析・整理等 	<p>定点観察位置の内、EL+774m (3段目) より上方でクラックの伸長が目立つ。また、EL+884m (7段目) は垂直方向のクラックの伸長が見られる。</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> ヘアークラック定点スケッチ 50箇所 ポップアウト部観察 6箇所 ボーリング孔部ヘアークラック深観察 2箇所 コンクリートコア分析 実体顕微鏡観察5、中性化試験5、アルカリ量試験4、電子顕微鏡観察4、X線回析5、骨材の熱分析5、化学分析1 堤体アバット壁面観察 6箇所 堤体下流面ブロック継目観察 15箇所 監査廊内継目部3Dゲージ測定 12箇所 ポップアウト個数調査 1式 定点スケッチ経年グラフ等まとめ 1式 	<ul style="list-style-type: none"> ヘアークラックは堤体中心付近で変化が少なく、両岸近接部で増加が見られる。 ヘアークラック以外の定点観察では目立った変位の進行はない。
12	<ul style="list-style-type: none"> ヘアークラック定点スケッチ 50箇所 ポップアウト部観察 6箇所 堤体アバット壁面観察 6箇所 堤体下流面ブロック継目観察 15箇所 監査廊内継目部3Dゲージ測定 12箇所 ポップアウト個数調査 1式 定点スケッチ経年グラフ等まとめ 1式 	<ul style="list-style-type: none"> ヘアークラックは堤体中段部で増加傾向が見られ、特に両岸近接部の変化が顕著である。 ヘアークラック以外の定点観察では、変位の進行は認められない。
13	<ul style="list-style-type: none"> ヘアークラック定点スケッチ 18箇所 監査廊内継目部3Dゲージ測定 12箇所 (平成13年1月4日地震後の臨時調査) 	<ul style="list-style-type: none"> ヘアークラックは平成12年12月の調査と比較し、地震の影響はほとんどなかった。 3Dゲージ測定結果は、地震による変位等の増加は認められない。
14	<ul style="list-style-type: none"> ヘアークラック定点スケッチ 41箇所 ポップアウト部観察 6箇所 堤体アバット壁面観察 6箇所 ボーリング孔部ヘアークラック深観察 7箇所 (堤体5、プラグ2) 堤体下流面ブロック継目観察 15箇所 ポップアウト個数調査 1式 定点スケッチ経年グラフ等まとめ 1式 対策工試験施工 9箇所 	(実 施 中)

ダム下流展開図

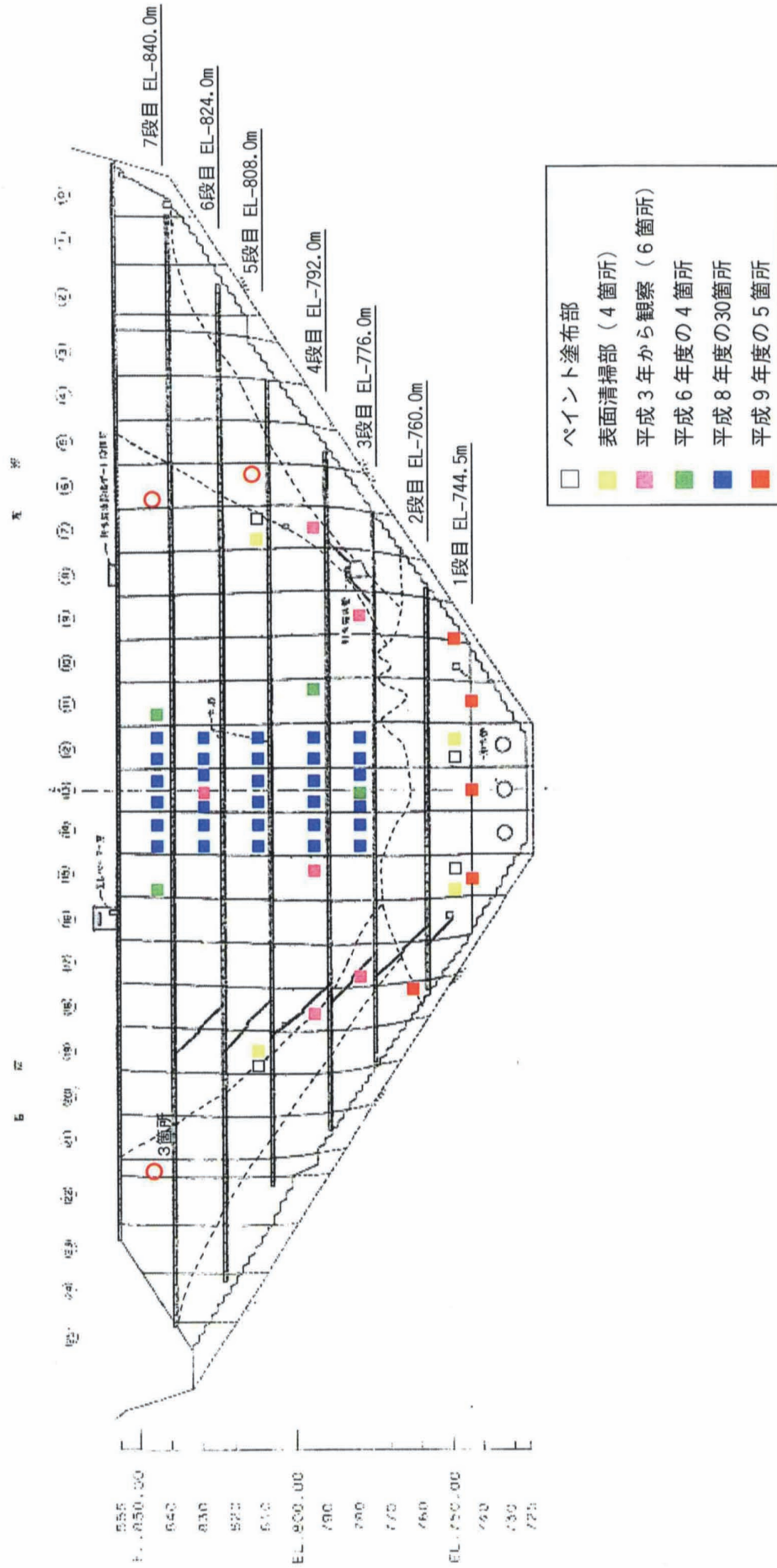


図 2.1 クラック定点観測位置図